

ナシマルカイガラムシ情報第1号

平成24年5月25日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病虫害防除室

ナシを加害するナシマルカイガラムシの防除適期は、
昨年より2～5日早い5月31日～6月6日です。

1 ナシマルカイガラムシの防除適期

雌成虫、卵、2齢幼虫は殻で覆われ薬液がかかりにくいいため、その時期に農薬散布しても効果はほとんど期待できません（図）。農薬による防除効果が高いのは、ふ化後に殻からはい出してくる歩行幼虫です。特に、第1世代歩行幼虫の発生時期は揃っており、葉もあまり繁茂せず、散布ムラが生じにくいいため、第1世代歩行幼虫の発生ピーク時期は最も重要な防除時期です。

発生ピーク時期は3月から5月の気温により変動するので、毎年、有効積算温度による防除適期予測に基づいて防除することが重要です。

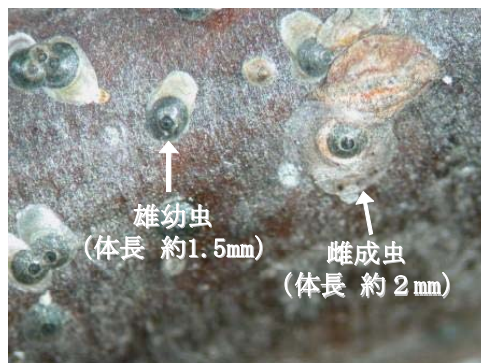


図 ナシマルカイガラムシの寄生状況

2 防除適期予測

有効積算温度を利用したナシマルカイガラムシ第1世代歩行幼虫の発生ピーク予測日は、昨年より2～5日早い5月31日から6月6日です（表1）。

表1 ナシマルカイガラムシの第1世代歩行幼虫発生ピーク予測日

	愛西	東海	南知多	名古屋	豊田	岡崎	蒲郡	新城	豊橋	伊良湖
本年予測	6/4	5/31	6/5	5/31	6/4	6/5	6/3	6/6	6/5	6/3
(昨年)	6/8	6/3	6/8	6/4	6/7	6/7	6/6	6/9	6/7	6/8
昨年差	4日早い	3日早い	3日早い	4日早い	3日早い	2日早い	3日早い	3日早い	2日早い	5日早い

注) 各地のアメダス平均気温から予測。5月24日までは本年実測値を、それ以降は平年値（豊橋は昨年値）を用いて計算。昨年については、昨年気温の実測値を用いて計算。

3 防除

- (1) 第1世代歩行幼虫発生ピーク予測日を参考に防除しましょう（表2）。
- (2) 雌成虫が重なり合って寄生している場合は、薬液が歩行幼虫の虫体にかかりにくいので、雌成虫を削り取ってから農薬を散布しましょう。
- (3) 散布ムラがないように十分な薬液量を丁寧に散布しましょう。
- (4) アプロード水和剤は残効性に優れているため、発生ピーク予測日より2～3日早めに散布すると効果的です。

表2 ナシマルカイガラムシの主な防除薬剤

作物名	薬剤名
ナシ	アプロード水和剤
	モスピラン水溶剤
	マラソン乳剤